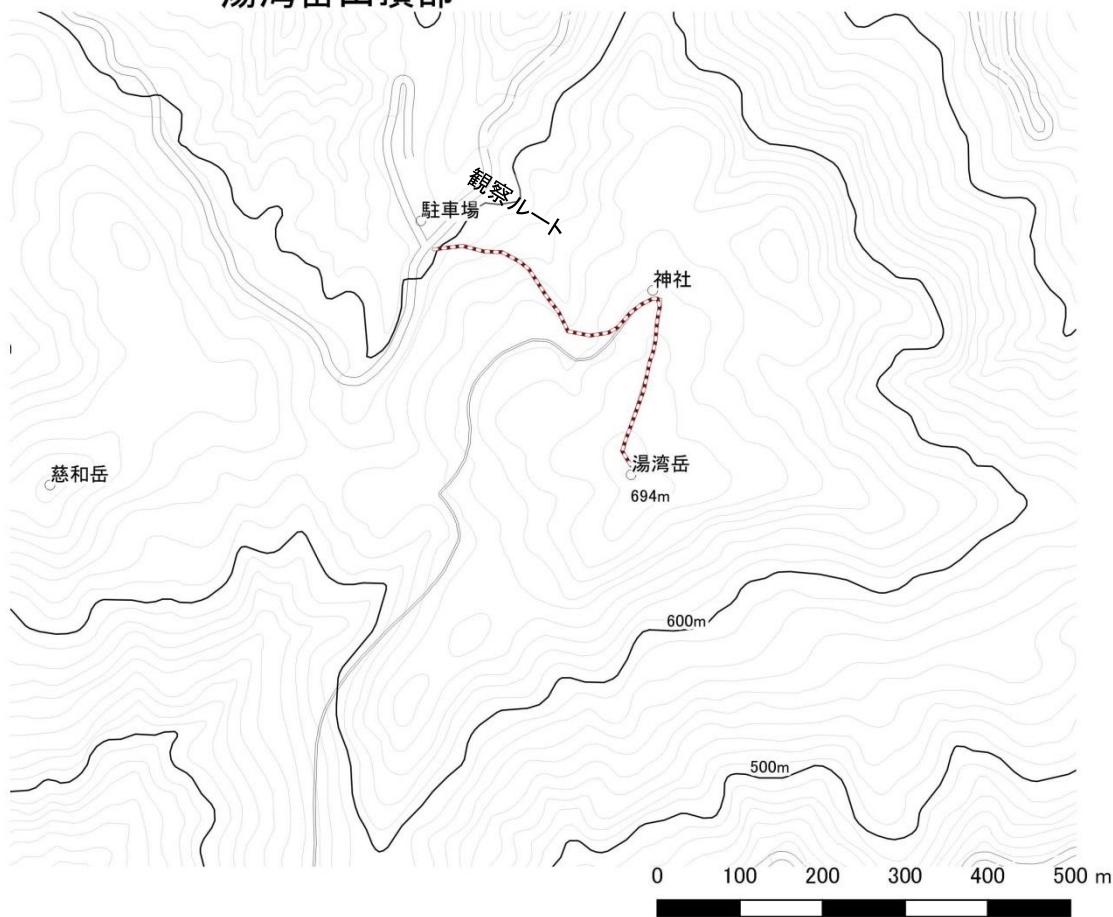


湯湾岳山頂付近の主な植物

Common Plants on Mt. Yuwan

JSATE27エクスカージョン資料

湯湾岳山頂部



木本 Tree

サクラツツジ

Rhododendron tashiroi (Ericaceae ツツジ科)



春には桜の様な薄いピンク色の花が咲く。ミツバツツジ類のように3枚の葉が茎の先端に集まって3輪生のように見える。高知県南部、鹿児島県、琉球列島、台湾に分布



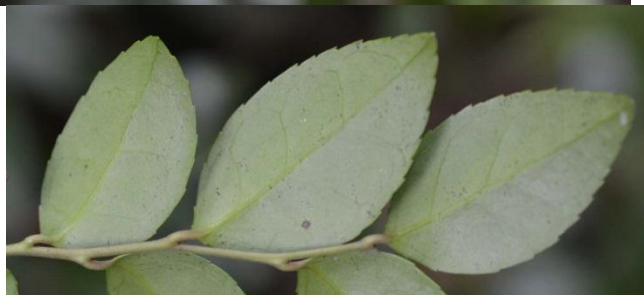
葉の長さ4-5cm。茶色の毛が多い

ギーマ

Vaccinium wrightii (Ericaceae ツツジ科)



シャシャンボと同属で、長さ2-3cmの葉だけではほとんど同じに見えるが、シャシャンボでは葉裏主脈沿いに突起があるが、本種にはほとんどない。ギーマは奄美から台湾に分布し、シャシャンボはトカラ列島が南限で奄美にはない。



3-4月に咲く花は7月に咲くシャシャンボより、大きな花序で華やか

アデク

Syzygium buxifolium (Myrtaceae フトモモ科)



葉身長約3cm。葉裏に葉の周辺に側脈を連結する脈があり対生。九州南部に普通。この属は熱帯に数百種あり同定が非常に難しいが、日本には野生種は1種しかないので容易にわかる。

アマシバ

Symplocos formosana (Symplocaceae ハイノキ科)



葉身長3-5cmの低木。葉に光沢があり、互生。同じハイノキ科のクロバイに似ているが、クロバイより葉が柔らかくて丸い。クロバイは枝がしっかりしており、斜め上に伸びるが、アマシバは横に伸びやすい。

イヌガシ

Neolitsea aciculata (Lauraceae クスノキ科)



葉身長約5cm葉が枝先に集まり、輪生のように見える。クスノキ科に多い3主脈の葉で裏が白い。似た種でより葉が大きいシロダモもある。

シバニツケイ

Cinnamomum doederleinii (Lauraceae クスノキ科)



葉身長3cm前後の低木。葉が左右両側にほぼ対生に出る。トカラから沖縄に分布

カンコノキ

Glochidion obovatum (Phyllanthaceae コミカンソウ 科
旧トウダイグサ科))



種小名のobovatum(倒卵形の)に示されるような葉の形が特徴的でわかりやすい。

ウラジロカンコノキ

Glochidion acuminatum (Phyllanthaceae ミカンソウ科 旧トウダイグサ科)



常緑樹だが落葉樹の様な薄い葉。葉の基部が左右不対称。葉裏が白みを帯びる。分布:奄美群島～沖縄

シラキ

Neoshirakia japonica (Euphorbiaceae トウダイグサ科)



葉身長10cmほどの落葉樹。
分布：本州から沖縄。
九州本土では暖温帯上部
～冷温帯林でよく見るが、
湯湾岳周辺でも比較的普
通



ヤマヒハツ *Antidesma japonicum* (Phyllanthaceae コミカンソウ科 旧トウダイグサ科)



葉身約10cmの低木。葉の基部が左右不対称。奄美に多い。

ヒイラギズイナ

Itea oldhamii (Iteaceae ズイナ科)



葉身長5-10cm、イスノキの葉に似た硬い葉。若い木の葉には鋸歯がある。奄美では比較的稀

Eurya emarginata var. *minutissima* (Ternstroemiaceae
モッコク科 旧ツバキ科)

マメヒサカキ



屋久島の山地にあるヒメヒサカキに似た、葉の小さなヒサカキ



ヒサカキ

Eurya japonica (Ternstroemiaceae モッコク科 旧
ツバキ科)



本州から沖縄まで分布する一般種。マメヒサカキと混生している。

アマミヒサカキ

Eurya osimensis (Ternstroemiaceae モッコク科 旧
ツバキ科)



葉身長5～10cm。ヒサカキより大きな葉。分布：奄美～沖縄

モッコク

Ternstroemia gymnanthera (Ternstroemiaceae モッコク科 旧ツバキ科)



関東～沖縄まで分布する一般種。
葉柄が赤く、葉身は5cmほどの長さで厚く、葉脈がほとんど見えない

イジユ

(*Schima wallichii* subsp. *Noronhae* Theaceae ツバキ科)



葉身長10-15cm、縁に鋸歯がある。新葉は赤い。5-6月に開花する。高木になり優占種の一つ。熱帯～奄美大島・小笠原諸島まで分布する種で、いくつかの亜種に分けられているが同じ種がジャワ島から奄美大島までの南西諸島と、小笠原に分布する

ミミズバイ

Symplocos glauca (Symplocaceae ハイノキ科)



葉身長15cm前後、葉の縁に鋸歯があり、裏が白色を帯びる。
東海地方～沖縄に分布。高さ数mになる低木。

ヒメユズリハ

Daphniphyllum teijsmannii (Daphniphyllaceae ユズリハ科)



葉柄が長く赤く葉身とはっきり区別できる、葉裏が白く細脈がよく見える。奄美で海岸から山地までよく出現する。
近縁種でより葉が大きく、細かな葉脈が見えないユズリハは奄美大島には分布しない。

リュウキュウミヤマシキミ *Skimmia japonica* var. *lutchuensis*
(Rutaceae ミカン 科)



葉身長10－15cm。トカラ～沖縄に分布。屋久島以北に分布するミヤマシキミより、葉など全体的に大き目である他は、ほぼ同じ

雄花
雌雄異株で
春に開花

シキミ

Illicium anisatum (Illiciaceae シキミ科)



葉身長 10cmほどの木。
葉に独特な匂いがある。
普通種。
仏壇によく飾られる



アマミヒイラギモチ

Ilex dimorphylla (Aquifoliaceae モチノキ科)



葉身長5cmほどの低木。鋭く大きな鋸歯があることで同定に迷うことはない。湯湾岳の固有種でごく稀



コシヨウノキ

Daphne kiusiana (Thymelaeaceae ジンチョウゲ科)



葉身長約10cm、樹高さ1mほどの低木。冬に白い花を咲かせ翌年赤い実がなる。

モクタチバナ

Ardisia sieboldii

(Primulaceae サクラソウ科 旧ヤブコウジ科)



葉身長10-15cm。厚めだが比較的柔らかい葉で、ほとんど脈が見えない。



幹に残る枝の落ちた痕

葉身長10cm前後。四国～沖縄に分布。亜高木にまでなり、海岸部ではかなり優占する。幹に枝が落ちた痕が残っているのが特徴。

シシアクチ

Ardisia quinquegona (Primulaceae サクラソウ科 旧ヤブコウジ科)



シシアクチ

モクタチバナ

シシアクチはモクタチバナより若干小さな葉だがよく似ている。直径数cmにしかならない低木で実も黒く(稀に赤)、モクタチバナは赤いので大きな個体の区別は容易。

モクタチバナの幼木と本種の区別が葉だけでは難しいが、茎に対して小枝がモクタチバナは相対的に太いことで区別できる。



シシアクチ



モクタチバナ 細い茎に太い枝がついている

マンリョウ

Ardisia crenata
(Primulaceae サクラソウ科 旧ヤブコウジ科)



葉身長10cmほどで、高さ1mに満たない低木。関東～沖縄まで広く分布。浅い鋸歯があり、その付け根に内腺体という組織があり、少し膨れている特徴で容易に区別できる。

センリョウ

Sarcandra glabra (Chloranthaceae センリョウ 科)



葉身長20cmほどで対生の葉。高さ1
ほどの低木。冬には実がオレンジ～
赤く熟す。関東～沖縄に分布し、同
種がジャワ島の産地にもある。



オオシマガマズミ

Viburnum tashiroi (Adoxaceae レンブクソウ 科)



奄美大島固有。本州・九州にあるガマズミより、雄しべが短い特徴があるが、葉だけでは区別困難だが、奄美大島には普通のガマズミはないので、ガマズミのように見える樹木はオオシマガマズミと考えられる。

ヤンバルアワブキ

Meliosma arnottiana subsp. *oldhamii*
(Sabiaceae アワブキ 科)



一回羽状複葉で全体が約30cmの長さ。互生で縁に鋭い鋸歯がある。



同じ属で似た名前のナンバンアワブキ *Meliosma squamulata* という樹木もあるが、こちらは単葉



シダ Fern

オオタニワタリ

Asplenium antiquum (Aspleniaceae チャセンシダ 科)



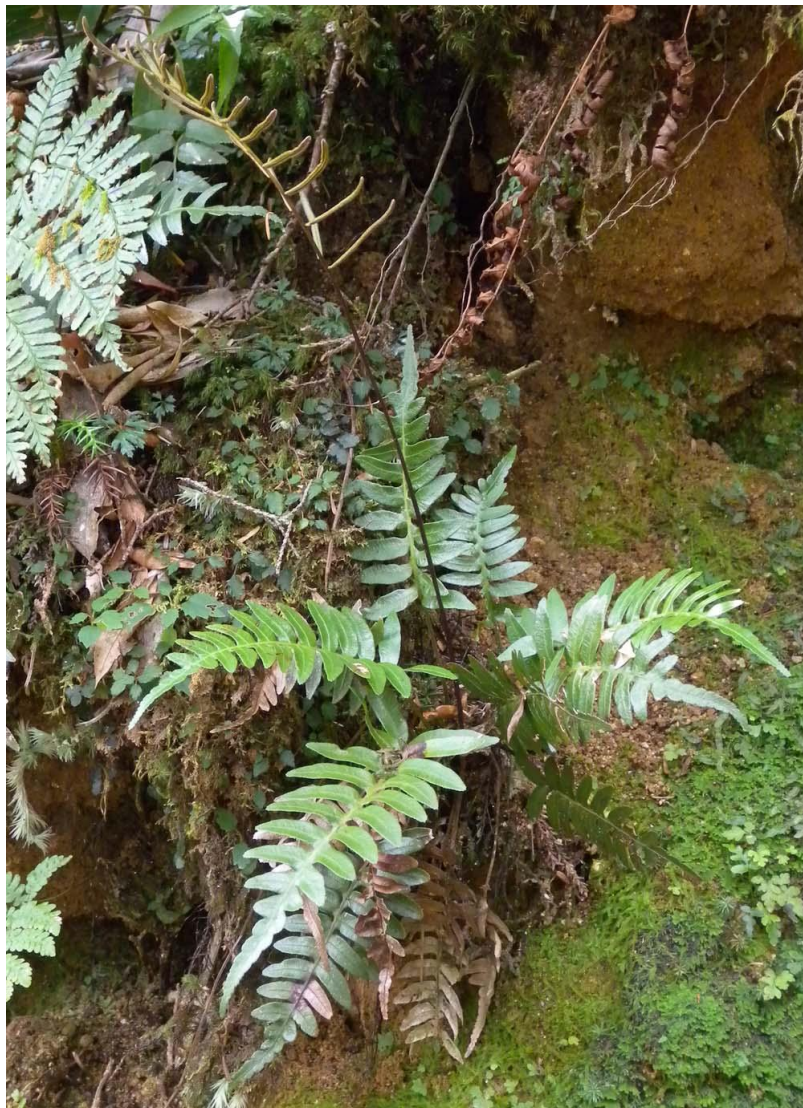
湿った山地によくあり、葉の長さが1mに達する大型の着生シダ。奄美にはオオタニワタリとシマオオタニワタリの2種類がある。シマオオタニワタリは東南アジアに広く分布



オオタニワタリ
茶色の筋状の孢子囊群が葉の縁近くまである。



シマオオタニワタリ
(*A. nidus*)
孢子囊群が葉の中央寄りにしかない。



葉の長さ30cm前後、

上に伸びた孢子葉に孢子ができ、下にある広い葉は光合成を行うだけの栄養葉。九州南部から普通種

類似種のキジノオシダは明瞭な頂羽片を持つがこの種は側羽片から徐々に頂羽片に変化していく。オオキジノオは側羽片に明瞭な柄がある。

ハンコクシダ

Diplazium pullingeri(Woodsiaceae イワデンダ科)

草本



葉が輪生状に地面から出ている様子は、タカサゴキジノオに似ているが、タカサゴキジノオは孢子葉と栄養葉が別なので、広い栄養葉には、孢子嚢がない。屋久島以南に分布するが、比較的稀



草本 Herb

ナンゴクホウチャクソウ

Disporum sessile var. *micranthum*
(Colchicaceae イヌサフラン 科 旧ユリ科)



北海道～九州に分布するホウチャクソウの変種。
分布：口永良部島、トカラ列島、奄美大島、徳之島
花がホウチャクソウより小さく、先端があまり緑にならない。



モロコシソウ

Lysimachia sikokiana (Primulaceae サクラソウ科)

草本



花(6月)



実(12月)

比較的稀な草本で、独特な匂いがある。

アオノクマタケラン

学名(科)

草本



高さ1mほどにまでなる草本で葉は無毛
似た種のハナミョウガは葉に毛が多い。
人家近くには栽培種のゲットウがよく植えられ、ゲットウとアオノクマタケランの自然雑種がクマタケラン。



冬にオレンジ色の実をつける

ノシラン

Ophiopogon jaburan (Ruscaceae ナギイカダ 科 旧
ユリ科)

草本



幅1cmほどの葉
湯湾岳山頂付近に群生している。



冬に青い実をつける

ヤクシマスミレ

Viola iwagawae (Violaceae スミレ科)



葉身長2-3cmの小型のスミレ。湯湾岳
山頂部に多い



アマミフユイチゴ

Rubus amamianus (Rosaceae バラ科)

草本



フユイチゴと比較すると花
が大きいことが特徴で、葉
だけ見るとほぼ同じ。

6月に開花



ヒメカカラ

Smilax biflora (Smilacaceae サルトリイバラ科)

草本



サルトリイバラの仲間で、葉が長さ3cmほどと小さい。



アカミノヤブガラシ

Cayratia yoshimurae (Vitaceae ブドウ科)

草本



ヤブガラシは明るい場所に多いが、この種は林内に生育する。